



12  
2020

第20号

## 「高次脳機能障害 当事者・家族交流会」の紹介

京都市高次脳機能障害者支援センターでは、高次脳機能障害のある方やそのご家族が、交流や情報交換を行うことができる場所として、『当事者・家族交流会』を開催しています。当事者やご家族はもとより、高次脳機能障害者の支援に携わる方にもこの交流会について知っていただきたいです！

### Q1. 参加しているのはどんな人？

A1. 高次脳機能障害のある方（当事者）やそのご家族（親や子、兄弟・姉妹など）です。センターの職員（支援コーディネーター）も参加しています。  
※支援機関のスタッフの方の見学参加も受けています。



### Q2. 障害がわかって何年目くらいの人達が参加しているの？

A2. 5年、10年と長く障害と付き合いおられる方や、まだ入院中で、戸惑いや今後の不安が大きい方など、様々です。色々な時期の方が参加されているからこそ、当時を振り返り回復・軽快してきた実感を得たり、障害がわかった直後の戸惑いや不安を共感し合えたり、少し先の見通しを持つことができたりするようです。また、障害についての対応方法や利用できる支援サービスなど、経験に基づいた情報交換もしておられます。



### Q3. 話すことが苦手ですが参加しても大丈夫？

A3. 交流会では、「話したくない時は話さなくてOK」、「交流会で聞いた内容は他言しない」など、安心して参加いただけるよう会の約束事を決めています。うまく話せない時にはセンター職員もお手伝いします。一度参加して場の雰囲気を感じてみてください。

他にも気になる点があればお気軽にお問合せください。ご参加お待ちしております。

（事前申込要。高次脳機能障害者支援センター）

TEL：075-823-1658 FAX：075-842-1541

☆交流会のチラシは、[京都市高次脳機能障害者支援センター](#)のホームページの、「各種研修等」のページ内にあります！



チラシはこちらからも  
ご覧いただけます！



よくわかる！

# 障害者支援施設 シリーズ

当施設には、楽しみながら体力向上を目指す、“レクリエーションスポーツ”という訓練プログラムがあります。主なねらいとして、集中力や注意力、コミュニケーション能力の向上が期待されます。



## 卓球バレー大会



今回は施設で行った卓球バレー大会の様子をお伝えします。今年度は、新型コロナウイルスへの対応から、プレーヤー同士の距離や消毒、換気等に気を配りながら行いました。

10月28日の午前中のプログラムの時間を使い、レクリエーションスポーツ大会種目として初めての卓球バレー大会を行いました。利用者さんと職員合わせて1チーム7人編成で、4チームに分かれて優勝を目指しました。



チーム毎にメンバーが集まって、キャプテンやチーム名、ポジションなどを相談しました。チームで作戦を練ることで、会話も弾み、表情もほぐれて「優勝するぞ！」という皆さんの意気込みが感じられてきました。

準備体操をしっかり行って体を慣らすところからスタートし、ゲームに入ります。

1試合 10分のトーナメント形式で対戦しました。



試合は、弾丸スマッシュや、ネット際の攻防、巧みなアシストや連携プレイなどで白熱し、応援している人も、ドキドキ、ハラハラです。

体育館には、スマッシュが決まったときの歓声や元気な笑い声が響いていました。



# 家族の声の紹介



## 夫が施設を利用して

Dさんが退所後、お手紙が届きました。ご家族の葛藤や思い、在宅生活でも生かされている施設利用中の工夫等をご報告いただきました。今回は、ご家族の了解を得て、そのお手紙の内容の一部をご紹介します。

<Dさん> 50歳代男性。

- ・転落による脳損傷となり重度記憶障害、病識欠如、失語症、環境依存性亢進が残る。
- ・受傷後、病院でリハビリを受けた後、当施設に入所。自立した生活を目指し、当施設で2年間日常生活訓練、高次脳訓練などに取り組む。
- ・施設では常に支援者の見守りや誘導を受けて生活。見えるものに反応しやすいDさんの今後の生活を見据え、工夫しながら取り組む。
- ・重度の障害は残ったままだが、就労継続支援B型事業所の利用が決まり、在宅復帰。

主人に関わっていただいた全てのスタッフの皆様へ

本当に大変お世話になりました。夫は、事故をして生死をさまよい、後遺症が残り、『どうして生きていこうか』と自分の心がついていけず、生活を整えるのに時間がかかりました。

(現在、自宅の生活では、)メモリーノートを毎日きちんとつけ、スケジュールや日記を書いて活用しています。薬も日付をいれ、順番に並べておけば、間違えることなく飲んでいます。施設での生活が生かされ、朝は洗濯物を干すのも手伝ってくれ、ゴミ出しも『運動になるから』といてくれます。一つ一つ確認は必要ですが、大きな混乱もなく生活ができています。事業所の記録をもとに話を引き出して、今日したことを聞くようにしています。作っていただいたご飯のカード、飲み物や食べ物の分別カード、毎日活用しています。思い込みや形だけの判断もまだまだあって、目が離せない部分もありますが、目に入るところに危険と思うものを置かないように心がけるようにしています。

一日が早く、パラパラパラっと日めくりのように時間が過ぎてしまいます。施設での2年間もとても早かったです。新たな主人を見ていかなければと思っています。まあ、「夫は生きてる」「生きてる」それだけで十分かと思えます。今できることを、今して、続けられたらいいなと思えます。

この2年も、いろいろ考え、自分のしたいことを整え、いろんな準備期間であったと思います。(利用期間)ぎりぎりまでお世話になり、やっと主人を受け入れられるようになったと思います。ありがとうございました。

※一部抜粋し、()で補記をさせていただきました。

### 京都市地域リハビリテーション推進センター 障害者支援施設 概要

- ◆利用対象者：18歳以上で高次脳機能障害を有する方
- ◆利用定員：入所又は通所での自立訓練(機能訓練25名、生活訓練15名。うち施設入所支援30名。短期入所も行っています。)
- ◆利用期間：個々の課題や目標に応じて、機能訓練は最長1年6か月、生活訓練は最長2年
- ◆お問合せ：京都市高次脳機能障害者支援センター  
TEL 075-823-1658 FAX 075-842-1545

からだの動きに障害のある方の



## 体力測定会&からだの相談会を開催しました

ご自身の体力を確認し、健康維持に役立てていただく「体力測定会&からだの相談会」を10月から12月にかけて開催しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、従来からの集団形式でなく個別対応で実施しました。当初は定員12名の予定でしたが、定員を上回る応募があり追加対応を行った結果、15名の方にご参加いただきました。今回、新たに参加された方も5名おられ、少しずつ参加者の広がりを感じています。

来年度も開催する予定です。専門職によるからだの相談会もあり、参加費も無料ですので、是非お気軽にご参加ください！



◆事業所等を対象とした訪問型の体力測定も実施しています。下のQRコードから「京都市障害福祉サービス事業所等訪問支援事業」の中にある申込書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。



ホームページ



<支援者対象のオンライン研修>



## よくわかる高次脳機能障害セミナー

### 「認知症ケアの知識と経験はこう使える！～共通点と相違点～」

例年、京都テルサで開催している本セミナーですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインで開催します

日時：令和3年3月15日（月）13時30分～16時

開催方法：オンライン会議システム「Zoom」

講師：上田 敬太氏（京都大学大学院医学研究科 精神医学教室 講師）

対象者：京都市内の介護保険施設・事業所の職員

※医療、福祉、就労、教育、相談支援機関の職員の方も申込可。

参加費：無料

申込締切：令和3年2月22日（月）先着100名

申込・問合せ：京都市高次脳機能障害者支援センターホームページからチラシを参照のうえ、申込フォームに必要事項を記入し送信してください。（電話：075-823-1658）



#### ★編集後記★

今年は世界中で終息を願う一年でした。延期や中止がたくさんありました。その中で従来の形を変えてでも、継続させていくものを多く見ました。これが進化に繋がっていくのだと思いました。リハエールも皆様と共に歩んでまいりたいと思います。ぜひ次号もお楽しみください。

【リハエール】第20号 令和2年12月発行

発行 京都市地域リハビリテーション推進センター  
〒604-8854 京都市中京区壬生仙念町30番地  
電話 075(823)1650(代表)  
FAX 075(842)1545  
Eメール [rehabili@city.kyoto.lg.jp](mailto:rehabili@city.kyoto.lg.jp)  
京都市印刷物 第24660号